

日本語のオノマトペ「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、 「ジンジン」、「ジーン」の記述的研究

杉村 泰

DOI: 10.18999/stul.33.5

1. はじめに

日本語には「ビリビリ」、「ジンジン」、「チクチク」のように痛みを表すオノマトペがたくさんある。しかし、日本語学習者はこれらのオノマトペの意味の違いを必ずしもよく理解しているわけではない。本稿では杉村泰(2017, 2018a, 2018b)に続き、痛みを表すオノマトペ「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」、「ジーン」の意味について論じる。

2. 先行研究

本稿で見る「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」、「ジーン」に関して、小野(編)(2007)では次のように記述されている。

小野(編)(2007:58)(例文は省略)

がながん ① **音・さま** やかましく、続けざまに打ち続ける音。② **さま** やかましい音や痛みが、頭や耳に強くひびくさま。③ **さま** 勢いのよいさま。精力的に事を行うさま。

小野(編)(2007:78)(例文は省略)

きりきり ① **音・声・さま** ものがかん高くきしんだり、こすれあう音。歯をくいしばる音やさま。鳥などのかん高く鳴く声。② **音・さま** かん高くきしる音がするほど、強く力を入れて巻きつけたり、引きしぼったりするさま。③ **さま** 引きしぼったように何重にも渦を巻いているさま。④ **さま** すばやく手際のよいさま。さっさつ。⑤ **さま** 体や心がきびしく

引き締まるさま。心に深くしみこむさま。⑥ **さま** 心がいらだったり、神経質になったりするさま。⑦ **さま** 体に痛みや寒さが鋭くさしこむさま。

小野(編)(2007:161-162)(例文は省略)

しくしく ① **声・さま** 勢いなくあわれげに泣く声。また、そのさま。② **音・さま** 絶えずさしこむように、にぶく痛むさま。③ **さま** 決断できないで、態度、気持ちなどを明確にしないさま。ぐずぐず。じくじく。④ **さま 古** 十分に行き届くさま。よくよく。とっくり。⑤ **さま 古** うれしさにこらえきれないで、しきりに心のふるえるさま。

小野(編)(2007:196)(例文は省略)

じんじん ① **音・声・さま** ものをたたいて振動させて出す重くふるえる音。湯のたぎる音。虫のなく鳴く声。また、そのさま。② **さま** 病気やけがなどで、患部がたえまなくひびくように痛むさま。しびれるさま。

小野(編)(2007:160)(例文は省略)

じーん ① **音** 絶え間なくこまかく強く振動する低い音。② **さま** 体がしびれるさま。痛さや冷たさで感覚がまひするさま。目が涙でしみるさま。③ **さま** 感動が体の奥から静かに湧き上がり、にじみ出てくるさま。

これを受け、本稿ではコーパス(BCCWJ)を利用して、「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」、「ジーン」の被修飾語(動詞など)と主体または対象¹の違いを見ることにより、各形式間の相違や各形式内の多義構造を詳しく見ていく。

3. 痛みの部位に関する意識調査

まず、日本語母語話者と学習者が「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」をどのように認識しているか見る。本研究では痛みを表す「ガンガン」、「キュンと」、「キリキリ」、「キンキン」、「シクシク」、「ジンジン」、「ズキズキ」、「ズーン」、「チクチク」、「ツーンと」、「ドーン

¹ 「頭がガンガンする」なら主体、「冷房をガンガンかける」なら対象であるとする。

と、「ヒリヒリ」、「ビリビリ」、「ピリピリ」、「ミシミシ」の 15 語のオノマトペについて、次の被験者を対象に以下のアンケート調査を行った。答えが分からない場合には想像で回答してもらった。

[被験者]

・日本語母語話者

名古屋大学学部生 61 名 (2017 年6月 29 日、7月 11 日、名古屋大学で実施)

・中国語を母語とする上級日本語学習者(全員N1合格)

名古屋大学留学生 19 人 (2017 年7月7日～17 日、名古屋大学で実施)

・中国語を母語とする初級日本語学習者(全員日本語学習歴8か月。この時点ではまだ授業ではこの 15 語のオノマトペを学習していない)

上海師範大学外国語学院日語系1年生 25 人 (2017 年5月 15 日、上海師範大学で実施)

[アンケート]

問 次の括弧の中に適当な身体部位を入れてください。また、それはどのような痛みだと思いますか(中国語で説明して構いません)²。

1. ()がガンガン痛む。()

:

15. ()がミシミシと痛む。()

その結果、痛みの部位に関して表1～表4の結果を得た。まず、「ガンガン」の場合、日本人はほぼ全員が「頭」を選んでおり、一人だけ「胸」を選んでいる。一方、上級学習者も全員が「頭」を選び、初級学習者も半数が「頭」を選んでいる。このことから、「ガンガン」が痛みを表すオノマトペとして使われる場合、母語話者も学習者も頭の痛みとしてイメージしやすいことが分かる。

² 括弧内の注は中国人学習者にのみ付けた。

表1 「ガンガン」の痛みの部位に関する意識調査 (回答数と割合)

	日本人		上級中国人学習者		初級中国人学習者	
1	頭	60(98.4%)	頭	19(100%)	頭	13(50.0%)
2	胸	1 (1.6%)	合計	19(100%)	胃	3(11.5%)
3	合計	61(100%)			骨	3(11.5%)
4					手	2 (7.7%)
5					脳	1 (3.8%)
6					目	1 (3.8%)
7					肩	1 (3.8%)
8					腹	1 (3.8%)
9					足	1 (3.8%)
					合計	26(100%)

次に「キリキリ」の場合、日本人は半数近くの人が「胃」を選び、次いで「歯」、「腹」を選んでいる。一方、上級学習者と初級学習も「胃」を2位に選んでいるが、選択率はおよそ10～20%しかない。

表2 「キリキリ」の痛みの部位に関する意識調査 (回答数と割合)

	日本人		上級中国人学習者		初級中国人学習者	
1	胃	27(44.3%)	頭	5(26.3%)	目	4(15.4%)
2	歯	11(18.0%)	胃	4(21.1%)	胃	3(11.5%)
3	腹	11(18.0%)	腹	3(15.8%)	手	3(11.5%)
4	頭	6 (9.8%)	顔	1 (5.3%)	頭	2 (7.7%)
5	胸	5 (8.2%)	歯	1 (5.3%)	舌	2 (7.7%)
6	肘	1 (1.6%)	耳	1 (5.3%)	心	2 (7.7%)
7	合計	61(100%)	胸	1 (5.3%)	腹	2 (7.7%)
8			背中	1 (5.3%)	歯	1 (3.8%)
9			腕	1 (5.3%)	喉	1 (3.8%)
10			膝	1 (5.3%)	胸	1 (3.8%)
11			合計	19(100%)	背中	1 (3.8%)
12					指	1 (3.8%)
13					骨	1 (3.8%)
14					肌	1 (3.8%)
15					傷	1 (3.8%)
					合計	26(100%)

次に「シクシク」の場合、日本人は「胸」が1位で、上級学習者と初級学習は「腹」が1位に来ている。

表3 「シクシク」の痛みの部位に関する意識調査 (回答数と割合)

	日本人		上級中国人学習者		初級中国人学習者	
1	胸	12(19.7%)	腹	9(47.4%)	腹	6(23.1%)
2	目	9(14.8%)	心	1 (5.3%)	足	4(15.4%)
3	歯	9(14.8%)	目	1 (5.3%)	泪	2 (7.7%)
4	腹	8(13.1%)	喉	1 (5.3%)	耳	2 (7.7%)
5	(推測不可)	8(13.1%)	首	1 (5.3%)	心	2 (7.7%)
6	心	3 (4.9%)	心臓	1 (5.3%)	手	2 (7.7%)
7	膝	2 (3.3%)	心	1 (5.3%)	膝	2 (7.7%)
8	足	2 (3.3%)	胃	1 (5.3%)	頭	1 (3.8%)
9	骨	2 (3.3%)	膝	1 (5.3%)	髪	1 (3.8%)
10	傷	2 (3.3%)	足	1 (5.3%)	鼻	1 (3.8%)
11	肩	1 (1.6%)	関節	1 (5.3%)	歯	1 (3.8%)
12	腕	1 (1.6%)	合計 19(100%)	合計 26(100%)	肩	1 (3.8%)
13	指	1 (1.6%)			腕	1 (3.8%)
14	皮膚	1 (1.6%)				
	合計	61(100%)				

次に「ジンジン」の場合、日本人も上級学習者も初級学習も「足」が1位になっている。

表4 「ジンジン」の痛みの部位に関する意識調査 (回答数と割合)

	日本人		上級中国人学習者		初級中国人学習者	
1	足	17(27.9%)	足	3(15.8%)	足	5(19.2%)
2	手	9(14.8%)	首	2(10.5%)	腹	4(15.4%)
3	耳	8(13.1%)	腹	2(10.5%)	歯	3(11.5%)
4	腕	4 (6.6%)	指	2(10.5%)	胃	3(11.5%)
5	傷	4 (6.6%)	胃	2(10.5%)	手	3(11.5%)
6	歯	3 (4.9%)	傷	2(10.5%)	頭	2 (7.7%)
7	指	3 (4.9%)	頭	1 (5.3%)	心	2 (7.7%)
8	腰	3 (4.9%)	目	1 (5.3%)	目	1 (3.8%)
9	膝	3 (4.9%)	歯	1 (5.3%)	喉	1 (3.8%)
10	肘	2 (3.3%)	心	1 (5.3%)	胸	1 (3.8%)
11	肌	2 (3.3%)	手	1 (5.3%)	指	1 (3.8%)
12	頭	1 (1.6%)	足首	1 (5.3%)	合計 26(100%)	
13	骨	1 (1.6%)	合計	19(100%)		
14	傷	1 (1.6%)				
	合計	61(100%)				

以下、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)」(BCCWJ)³の「中納言」を利用して、各オノマトペの被修飾語と主体または対象の違いについて見る。検索においては全資料を次のように短単位検索して、手作業でごみを取り除いた。

・キー 語形が[ガンガン] (or キリキリ/シクシク/ジンジン/ジーン)

4. 「ガンガン(と/に)」

4.1 「ガンガン(と/に)」の被修飾語

まず、「ガンガン」の被修飾語を表5に示す。これを見ると、「ガンガン」は全 440 例のうち、擬音語として使われる場合が 72 例(16.4%)、擬態語として様態を表す場合が 334 例(75.9%)、その両方の中間的な場合が3例(0.7%)、肉体的刺激(痛み)を表す場合が 30 例(6.8%)、その他が1例(0.2%)となっている。このように「ガンガン」には複数の用法があるが、いずれも擬音語からの派生として捉えられる。

例(1)はうるさい音が続けざまに響くことを表す擬音語の例で、打撃や音響の発生に関わる述語が来る。例(2)は擬音語としてうるさい音を表しているとも捉えられるし、擬態語として勢いよく音を立てている様子を表しているとも捉えられる例で、音響の発生に関わる述語が来る。例(3)はそこから派生して、音以外にも様々な事態が勢いよく行われる様子を表す例で、様々な述語が来る。例(4)は騒音によって耳が鳴り響くように痛む様子や、頭が割れるように痛む様子を表す例で、「する」⁴や痛みを表す述語が来る。

- (1) ドア{が/を}ガンガン{鳴る/鳴らす}。音楽{が/を}ガンガン{かかる/かける}。(音)
- (2) 音楽をガンガンにかける(流す)。(音と様態の中間)
- (3) 旅番組をガンガン流す。クーラー(圧力、お金)をガンガンかける。焼酎でもガンガン行ける。(様態)
- (4) (二日酔いで・銃声で)頭(耳)がガンガンする(痛む)。(肉体的刺激)

³ 検索対象語数: 124,100,964 語、空白・記号・補助記号を除いた検索対象語数: 104,911,460 語。

⁴ 吉永(2016:21)はオノマトペを「ヒリヒリ(する/*だ)」のように主に「する」が付加され、「だ」は不可できない(Aタイプ)、「くたくた(だ/*する)」のように主に「だ」が付加される(Bタイプ)、「ふらふら(する/だ)」のように「する」と「だ」の両方付加できる(Cタイプ)、「ぐっすり(眠る/*する/*だ)」のように特定の動詞と結びつき、「する」や「だ」が付加できない(Dタイプ)の4つに分けている。この分類に従うと、痛みを表す「ガンガン」はAタイプに相当すると思われる。

表5 「ガンガン(と/に)」の被修飾語 (出現数)

音(72)							
叩く	11	かける	4	音がする	2	蹴る	2
響く	6	鳴る	3	打ちつける	2	いう	1
殴る	5	鳴り響く	3	撃ち込む	2	φ(動) ⁵	1
聞こえる	5	音を立てる	3	打ち鳴らす	2	φ(名)	9
打つ、撃つ、打ちさえる、蹴りつける、しばき倒す、演奏する、鳴らす、(音楽を)流す、(ピアノを)弾く、(大音響を)使う、(空気を)震わせる (11 語)							1
音と様態の中間(3)							
(音楽を)かける	2	(音楽を)流す	1				
様態(334)							
行く	21	飲む	6	来る	4	食べる	3
やる	14	かける	4	効かせる	3	売れる	3
使う	11	乗る	4	歩く	3	圧力をかける	3
走る	10	進む	4	当たる	3	取る	2
言う	8	振る	4	出る	3	φ(動)	3
する	8	下がる	4	頑張る	3	ーだ	2
飛ばす	7	攻める	4	UPする	3		
聞く、焼く、炊く、書く、出す、入れる、打つ、ぶつける、つける、送る、振る、売る、釣る、行う、喋る、教え込む、詰め込む、攻撃する、働く、動く、遊ぶ、下る、稽古する、盛り上がる、効く、晴れる、ポップだ (27 語)							2
冷やす、冷える、流す、熾す、燃す、燃え盛る、熱する、炒める、刺す、取り入れる、捨てる、切り捨てる、カットする、削る、剃りまくる、殴る、打ち込む、攻める、やっつける、ぶっ込む、押しまくる、押し付ける、突く、突き上げる、突っ込む、突っ張る、突き進む、しごく、壊す、外す、干す、膨らませる、試す、練習する、撮影する、柵越えする、入力する、注文する、注入する、片付ける、推し進める、陣痛を起こす、踏む、抜く、洗う、拭く、落とす、落ちる、上げる、上がる、回す、回る、横向ける、頼む、稼ぐ、買う、縫う、撒く、強くする、つけっ放しにする、消す、出品する、出し入れする、勉強する、努力する、並べる、空ける、消費する、チェックする、やり取りする、歌う、表現する、口説く、口出しする、クレームをつける、話をする、紹介する、アジる、ナンパする、ウイリーする、エッチをやる、仕事をする、仕事がある、吸う、値を飛ばす、飛ぶ、飛び回る、飛び込む、飛び出す、跳ねる、喚く、泣く、笑う、見る、食う、ランチを取る、着る、かぶる、ぶつかる、善行する、交代する、失敗する、振りをする、映る、滑る、揺れる、混む、はみ出す、痩せる、減る、照りつける、(霜が)降る、降る、できる、なす、なる、ある、男っぽくなる、大きくなる、頭突き、加速、投入、増加、進角、オフィス、お日様、イケイケ、アタック、ジャー飲み、～の青空、～の鋼、～じい、ポップする (135 語)							1
肉体的刺激(30)							
ーする	13	鳴る	6	痛い	2	～のところ	1
ーだ	1	痛む	3	痛くなる	1	φ(動)	3
その他(1)							
φ ⁶	1						
合計(440)							

⁵ 「ーφ(動詞)」は「ドアをがががん。」のようにオノマトペ単独で動詞用法となっているもの、「ーφ(名詞)」は「「がががん」は実際に音が聞こえて響く様子」のようにオノマトペ単独で名詞用法となっているものを指す。

⁶ これは「日本語で「がががん」て何ですか？ 出来れば由来も教えて下さい。」(Yahoo!知恵袋)という例であり、各用法に分かれる前の抽象的な形式を表している。

4.2 「ガンガン(と/に)」の主体・対象

次に「ガンガン」の主体または対象を表6に示す。擬音語の場合、72 例中「音楽がガンガン鳴る」のような自動詞表現が 22 例、「戸をガンガン叩く」のような他動詞表現が 50 例となっている。擬音語と擬態語の中間的な3例は、いずれも「～をガンガンに(かける/流す)」のような他動詞表現で、ヲ格には音楽名が来ている。擬態語として様々な事態が勢いよく行われる様子を表す場合は、他動詞表現が多く、中でも「クーラー(暖房/冷房/エアコン/ストーブ)をガンガンかける」という例が一番多い。しかし、「俺、これからガンガン男っぽくなる」や「ガンガンに日が当たる」のような自動詞表現もある。また、肉体的刺激(痛み)を表す例は 30 例とも「頭がガンガンする(痛む)」のような自動詞または形容詞表現で、痛みの部位は「頭」が 26 例、「耳」が3例、心臓が1例であった。これは3節の表1で、日本人のほとんど全員が「頭」を選んでいる結果とも一致する。「ガンガン」は第一義的にうるさい音が続けざまに響くことを表す擬音語であるが、そこから派生して様々な事態が勢いよく行われる様子を表したり、騒音による耳の痛みや割れるような頭の痛みを表したりするようになったと考えられる。

以下、BCCWJ に出現した各用法の例を挙げておく。

- (5) (音) ベンフォールズのような、ピアノがガンガン鳴ってるポップさは無いと思います。
(Yahoo!知恵袋)
- (6) (音) マンションに逃げ込んで、友達の部屋のドアをガンガン叩いたの(大槻ケンヂ『神菜、頭をよくしてあげよう』)
- (7) (音と様態の中間) モーツァルトやベートーヴェンをガンガンにかけながら車を運転する。(須貝典子・片野優/『ウィーン「小さな街物語」』)
- (8) (様態) 店内はストーブがガンガン焚かれていた。(Yahoo!ブログ)
- (9) (様態) ストーブをガンガン焚いて、やかんをかける。(清水久美子『夢がかなう日ーその時輝いた7人の子どもたち』)
- (10) (肉体) 二日酔いで頭がガンガン鳴った。(利美川進『湯の街小町』)

表6 「ガンガン(と/に)」の主体・対象 (出現数)

音(72)							
～ガ(22)							
音楽	7	声	2	ギター之音	1	テレビの音声や雑音	1
ロック	3	うなり声	1	大音響	1	ピアノ	1
音	2	うるさい音	1	騒音	1	「桃色吐息」	1
～フ(50)							
ドア・戸・扉	8	床	1	肩	1	工事の音	1
半鐘	4	階段	1	ピアノ	1	レプタリアンたち	1
頭	3	崖	1	ジャズ	1	部下たち	1
机	2	ハンマー	1	カラオケ	1	他人の経験	1
椅子	1	弾丸	1	ステレオ	1	何か	1
鍋	1	火炎弾	1	流行歌	1	φ ⁷	11
楯	1	血管	1	怒鳴り声	1		
音と様態の中間(3)							
ユーロビート	1	マツケンサンバ	1	モーツァルトやベートーベン			1
様態(334)							
クーラー	6	クレーム	3	練習	3	(お)金	2
仕事	5	ストーブ	3	リーグ戦	2	晴れ	2
暖房	4	圧力	3	意見	2	φ(主体)	59
冷房	4	攻撃	3	稽古	2	φ(対象)	53
エアコン	3	車	3	黒豚	2	(人) ⁸	17
冷暖房、ファンヒーター、AC(エアコン)、蛍光灯、炭火、焚火、ソーラー電波、太陽、西日、日、お日様、直射日光、青空、雨、霜、水、波動、商品、塩分、米、白飯、納豆、肉類、焼肉、白菜やネギやキノコなど、チキンステーキ、焼酎、紹興酒、ワイン、ロック(酒)、ビール、ファンタ、ビールに始まりカクテル・焼酎・グラスワイン、鍋(フライパン)、乗り物、言葉、文句、俗語、番組、大ヒット曲、道路工事、政策、行政、行政指導、講義、撮影、勉強、万引き、妄想、質問、注文、選手交代、頭突き、善行、金儲け、駆け引き、釣り、笑い、子作り、陣痛、被害、リストラ、リメイク、リクエスト、メール、チェック、ごはんを炊く、ニューモデルの投入、Cookieの削除、乗馬、打撃、連打、ホームラン、ボール、ジャンボ(ジェット機)、貨物(列車)、受賞車、四駆、AT(車)、BMW、SUZUKIのジムニー、アクセル、NAVYモノ、Pチラ、RZV、TUBE、お話、セリフ、バンド、ハードナンバー、カラオケ、アタック、インスリン、ウイリー、エッチ、エンジン、ガキの熱、シティターボFF、パット・ルニョー、チップの裏側、ティッシュ、データ、テレパシー、テレビ、ドリフトイベント、ナンパ、タバコ、メッシュキャップ、ネクタイ、ニット、リール、ホイール、ポイント、マシン・ランニング・スイミング、ワールドカップ、鋼、剣、頭、ヒゲ、耳、腰、肉棒、熱い男の魅力、公共物、環状線、人口、正攻法、前の席、村クエ、洋服、布団、油膜、虫除けスプレー、城、段差、(車の)下、資産価値、時間、バブリーなクリエイティブ時代、(野球の得)点、臨戦態勢、恋の炎、値ガサ株、値段、情報、知識や技術、高校の物理履修率、気に入った部分、教義のようなもの、本章よりなにか得るもの、迷惑メールやウイルスメール、腕立て・腹筋・背筋・スクワット・懸垂など、「バットマン ビギンズ」のメインテーマ的な部分(153語)							1

⁷「φ」は検索した用例の中だけでは主体や対象が明示されていないものを指す。何となく推測できる場合でも「φ」とした。

⁸「(人)」は人に関する主体や対象が書かれていたものをまとめたものである。

肉体的刺激 (30)						
頭	26	耳	3	心臓	1	
その他(1)						
φ	1					
合計(440)						

5. 「キリキリ(と)」

5.1 「キリキリ(と)」の被修飾語

まず、「キリキリ」の被修飾語を表7に示す。これを見ると、「キリキリ」は全 99 例のうち、擬音語として使われる場合が 10 例(10.1%)、擬態語として様態を表す場合が 18 例(18.2%)、その両方の中間的な場合が 13 例(13.1%)、精神的刺激を表す場合が 7 例(7.1%)、肉体的刺激(痛み)を表す場合が 50 例(50.5%)、その他が1例(1.0%)となっている。このように「キリキリ」には複数の用法があるが、いずれも擬音語からの派生として捉えられる。

例(11)は物が擦れあって軋む音を表す擬音語の例で、歯軋りなど物の軋りを表す述語が来る。例(12)は擬音語として軋み音を表しているとも捉えられるし、擬態語として軋み音がするぐらいに対象が締め上げられている様子を表しているとも捉えられる例で、「締め上げる」、「巻き上げる」、「吊り上げる」のような対象を引き絞ることを表す述語が来る。例(13)はそこから派生して、事態が引き締まった様子を表す例で、様々な述語が来る。様態を表す用法のうち、1例のみ「小型車がキリキリで通れるだけのきわどい山道」というナ形容詞の用法があった。この場合「ギリギリで」と言う方が普通であるが、「キリキリ」を使うことによって、車輪を軋らせてやっと通り抜けられるぐらい細い道である様子が伝わってくる。例(14)は精神的に心がいら立って神経質になっている様子を表す例で、述語には「する」や「痛む」が来る。例(15)はストレスや疾病によって胃や胸が引き絞られるように痛む様子を表す例で、「する」や痛みを表す述語が来る。(吉永(2016)のAタイプ)

- (11) 弓をキリキリと引き絞る。部屋の空気がキリキリと音を立てる。(音)
- (12) 大蛇が彼女の体をキリキリと締め上げる。眉がキリキリと上がる。(音と様態の中間)
- (13) 夜がキリキリと冷える。キリキリと立ち働く。キリキリ歩け。(様態)
- (14) 彼は仕事の悩みで神経がキリキリしている(痛む)。(精神的刺激)
- (15) (ストレスで・疾病で){胃/胸}がキリキリする(痛む、締め付けられる)。(肉体的刺激)

表7 「キリキリ(と)」の被修飾語 (出現数)

音(10)							
嘯む	1	音を立てる	1	引き絞る	1	φ(動)	1
嘯み鳴らす	1	グライディングする	1	引き起こす	1	φ(名)	1
歯嘯みをする	1	回す	1				
音と様態の中間(13)							
絞め上げる	2	巻き付く	1	縮らせる	1	錐揉みをする	1
巻き上げる	2	巻く	1	(眉を)吊り上げる	1	ぜんまいがかかる	1
巻き上がる	1	食い込む	1	(眉が)上がる	1		
様態(18)							
一だ	2	走らされる	1	縛り上げる	1	殺気が満ちる	1
(立ち)働く	2	回る	1	絞り上げる	1	火の玉を上げる	1
歩く	1	迫る	1	白状する	1	針金となる	1
走り回る	1	磨く	1	怒る	1	冷える	1
精神的刺激(7)							
一する	5	痛む	2				
肉体的刺激(50)							
一する	12	差し込む	2	締め付ける	1	一系	1
痛む	21	刺す	2	引き絞る	1	φ(動)	3
痛くなる	2	痛みを起こす	1	垂れる	1	φ(名)	1
痛い	2						
その他(1)							
φ ⁹	1						
合計(99)							

5.2 「キリキリ(と)」の主体・対象

次に「キリキリ」の主体または対象を表8に示す。擬音語の場合、10例中「部屋の空気がキリキリと音を立てる」のような自動詞(的)表現が1例、「弓をキリキリと引き絞る」のような他動詞表現が7例、非動詞用法¹⁰が2例となっており、音を立てるものが主体や対象に来る。擬音語と擬態語の中間的な場合は、自動詞用法が4例、他動詞用法が9例で、主体や対象には「眉」や「こめかみ」などの身体部位や「御簾」や「布」など巻き上げられるものなどが来る。擬態語として軋み音がするぐらいに対象が締め上げられている様子を表す場合は、述語の

⁹ これは「この「きりきりかんかん」一冊は阿川佐和子そのものである。」(東海林 さだお『きりきりかんかん』)という例である。

¹⁰ これは「カラカラ・キリキリ・クルクル・コロコロはあるが、ケレケレだけはない。」(金田一春彦『金田一春彦著作集』第11巻)のような例である。

多様性に合わせて様々な主体や対象が来る。精神的刺激を表す場合は、7例中6例が自動詞表現、1例が他動詞表現(「痛ませる」)で、神経や心を表す語が主体や対象に来る。また、肉体的刺激(痛み)を表す例は50例とも自動詞または形容詞表現で、「胃」が27例で最も多く、次いで「胸」が9例で、脳や内臓に関する語が続く。これは3節の表2で、日本人の約半数が「胃」を選んでいる結果とも一致する。「キリキリ」は第一義的に物が擦れあって軋む音を表す擬音語であるが、そこから派生して様々な事態が引き締まった様子を表したり、ストレスや疾病によって精神的・肉体的に胃や胸が引き絞られるように痛む様子を表したりするようになったと考えられる。

表8 「キリキリ(と)」の主体・対象 (出現数)

音(10)							
歯	3	弓	1	不快に思う音	1	φ	2
銅銭	1	撃鉄	1	部屋の空気	1		
音と様態の間(13)							
眉	2	頭髪の端	1	屋敷	1	布	1
こめかみ	1	大戸帳	1	スズラン	1	スサノオ	1
首	1	御簾	1	つみ草	1	化け物	1
様態(18)							
小型車	1	あの町	1	イワノヒメ	1	φ(主体)	8
実	1	深夜	1	冬の気流の芯	1	φ(対象)	1
火の玉	1	殺気	1	小川紳介の死	1		
精神的刺激(7)							
神経	1	母心	1	志	1	(人)	4
肉体的刺激(50)							
胃	27	脳	1	お腹	1	手首	1
胸	9	脳髄	1	内臓	1	体中	1
下腹部	2	喉元	1	心臓	1	φ	1
頭の芯	1	筋肉	1	脾臓	1		
その他(1)							
φ	1						
合計(99)							

以下、BCCWJ に出現した各用法の例を挙げておく。

- (16) (音) 向井はキリキリと撃鉄を引き起こすと、もう一度引金を引いた。(浅田次郎『三人の悪党』)

- (17) (音と様態の中間) 庇の間の南面の御簾が、きりきりとなかば巻き上げられた。(安西篤子『義経の母』)
- (18) (様態) ととのった容貌なのに化粧っ気がなく、いつもキリキリ立ち働いていた。(辻真先『デッド・ディテクティブ』)
- (19) (精神) スケジュールをビッシリ立てて仕事と家事でキリキリしている。(海原 純子『素敵に自分に気づく本』)
- (20) (肉体) 胃潰瘍にかかれば、お腹がキリキリと痛む。(奈良 信雄『名医があかす「病気のたどり方」事典』)

6. 「シクシク(と)」

6.1 「シクシク(と)」の被修飾語

まず、「シクシク」の被修飾語を表9に示す。これを見ると、「シクシク」は全 120 例のうち、泣く時の様態として使われる場合が 100 例(83.3%)、精神的刺激を表す場合が 1 例(0.8%)、肉体的刺激(痛み)を表す場合が 19 例(15.8%)となっている。先の「ガンガン」や「キリキリ」と違い、「シクシク」は精神的刺激では派生が感じられるが、肉体的な刺激では様態の弱々しさという薄いつながりが感じられるだけである。

表9 「シクシク(と)」の被修飾語 (出現数)

泣く時の様態(100)							
泣く	47	啜り泣く	1	涙する	1	φ(動)	48
むせび泣く	1	啜り泣きを始める	1			φ(名)	1
精神的刺激(1)							
一する	1						
肉体的刺激(19)							
一する	2	痛い	1	継続する	1	一系	1
痛む	9	差し込むように痛い	1	一って感じ	1	一程度	1
痛くなる	1	かむ	1				
合計(120)							

例(21)は擬態語として悲しみに沈んで声を潜めて弱々しく泣く様子を表す例で、「泣く」や「啜り泣く」などの述語が来る。例(22)は精神的に心が悲しくなる様子を表す例で、述語には

「する」が来る。例(23)は不安による胸の痛みや胃や胸が継続的に差し込むように鈍く痛む様子を表す例で、「する」や痛みを表す述語が来る。(吉永(2016)のAタイプ)

- (21) 彼は彼女の胸に顔を埋め、シクシクと泣き出した。(泣く時の様態)
 (22) 私は心がシクシクした。(精神的刺激)
 (23) {胃/胸}がシクシクする(痛む)。(肉体的刺激)

6.2 「シクシク(と)」の主体・対象

次に「シクシク」の主体または対象を表 10 に示す。擬態語として悲しみに沈んで声を潜めて弱々しく泣く様子を表す場合は、100 例全て自動詞表現で、泣いている人が主体となる。精神的刺激を表す場合は、「心がシクシクする」の 1 例のみ出現した。また、肉体的刺激(痛み)を表す例は 19 例中 18 例が自動詞または形容詞表現で、「腹」、「胃」、「胸」などが来る。19 例中 1 例だけあった他動詞表現は「空っぽの腹をしくしとかむひもじさ」という例である。3 節の表 3 では日本人の選択数上位は「胸」、「目・歯」、「腹」の順となっているが、BCCWJ では「胸」より「腹」の方が出現数が多くなっている。

表 10 「シクシク(と)」の主体・対象 (出現数)

泣く時の様態(100)						
(人)	100					
精神的刺激(1)						
心	1					
肉体的刺激(19)						
(お)腹	6	胸	2	頭	1	φ
胃	5	(腹の)左	1	首	1	
合計(120)						

以下、BCCWJ に出現した各用法の例を挙げておく。

- (24) (泣く時の様態) 桜なんかとつくの昔に抵抗を諦めて、「とほほ…」と人知れずシクシク
 泣いている。(嬉野秋彦『ヒミツの転校生』)
 (25) (精神) わたし、心が、ちょっとシクシクしちゃって、いっぱい込み上げてくるものを、
 (若林真紀『大人の恋にあこがれて』)

- (26) (肉体) 胃酸によるしくしくした痛みを改善。(『an・an』2001年10月31日号)
- (27) (肉体) ちなみにシクシクさしこむように痛い時はhave a griping (acute) painです。(飯室真紀子『日本人が必ず迷う・間違う英語の「壁」突破法』)

7. 「ジンジン(と)」

7.1 「ジンジン(と)」の被修飾語

まず、「ジンジン」の被修飾語を表11に示す。これを見ると、「ジンジン」は全49例のうち、擬音語として使われる場合が1例(2.0%)、擬態語として様態を表す場合が3例(6.1%)、精神的刺激を表す場合が1例(2.0%)、肉体的刺激(痛み)を表す場合が44例(89.9%)となっている。このように「ジンジン」は先の「ガンガン」、「キリキリ」、「ジンジン」と違ってほとんど肉体的刺激(痛み)の用法で使われている。しかし、この場合も「ガンガン」や「キリキリ」と同様に擬音語から擬態語への派生として捉えることができる。

表11 「ジンジン(と)」の被修飾語 (出現数)

音(1)							
鳴る	1						
様態(3)							
飛ぶ	2	効く	1				
精神的刺激(1)							
熱い	1						
肉体的刺激(44)							
—する	20	焦げ付く	2	熱を帯びる	1	耳鳴りがする	1
—くる	1	熱くなる	1	熱い	1	不愉快だ	1
痛む	4	熱く痛む	1	燃え上がる	1	痺れるような痛みを感じる	1
痺れる	4	熱く疼く	1	痛い	1		
伝わる	2	熱さを感じる	1				
合計(49)							

例(28)は物が振動して小刻みに重低音で響くことを表す擬音語の例で、音響の発生を表す述語が来る。例(29)は擬態語としてある状態が響き渡ったり、染み込んだりする様子を表している。例(30)は何らかの感情が心の底から湧き上がってきて、熱く痺れるような様子を表し、「熱い」のような述語が来る。例(31)は体(主に体表面)に熱を帯び、痺れるような痛みを表し、「する」、「痛む」、「痺れる」、「伝わる」、「熱い」などの述語が来る。(吉永(2016)の

Aタイプ)

- (28) ベルがジンジンと鳴る。(音)
- (29) ホタルがジンジンと踊るように飛んで行く。葉が体にジンジン効く。(様態)
- (30) 心がジンジン熱い(する)。(精神的刺激)
- (31) {頭/足}がジンジンする(痛む、痺れる)。(肉体的刺激)

7.2 「ジンジン(と)」の主体・対象

次に「ジンジン」の主体または対象を表 12 に示す。擬音語の場合、「(電話の)ベル」の例が 1 例だけ出現した。様態の場合は、「ホタル」が踊るように飛ぶ様子を表す例が 2 例と、文面には明記されていないが、何かの飲み物が体に染み入るように効く様子を表す例が 1 例出現した。精神的刺激を表す場合は、「ハート」の例が 1 例出現した。また、肉体的刺激(痛み)を表す例は「頭」、「足」、「耳」、「肩」、「クリトリス」など体表面や体表面から直接つながった体内部分が来ており、内臓には使いにくいようである。これは 3 節の表 4 と一致するが、表 4 に比べると手や足の割合が少なくなっている。

表 12 「ジンジン(と)」主体・対象 (出現数)

音(1)							
ベル	1						
様態(3)							
ホタル	2	φ	1				
精神的刺激(1)							
ハート	1						
肉体的刺激(44)							
頭	4	頬	1	クリトリスとあそこの奥のほう	1	1	
足	4	目	1	乳首	1	体の奥の方	1
耳	2	脛	1	股間	1	お腹の奥の奥	1
肩	2	鼓膜	1	尻	1	恥ずかしい部分	1
クリトリス	2	鼻の奥	1	中心	1	女の一番敏感な所	1
頭の芯	1	歯	1	秘処	1	代わりに挿れる物	1
脳	1	手	1	アソコ	1	前立腺や膀胱の辺	1
後頭部	1	手首	1	下腹部	1	φ	3
体の芯	1	蹴られた部分	1				
合計(49)							

以下、BCCWJ に出現した各用法の例を挙げておく。

- (32) (音) じんじんとベルだけが、誰もいない部屋で鳴っている。(渡辺淳一『化粧』)
- (33) (様態) はちみつや砂糖を入れると飲みやすいです。じんじん効いているのを感じます。(Yahoo!知恵袋)
- (34) (精神) しかし、ハートはじんじん熱かった！(Yahoo!ブログ)
- (35) (肉体) 急に走ったりすると足がジンジンしびれて、だるい感じになるのはそれだ。
 (『化学・意表を突かれる身近な疑問—昆布はなんでダシが海水に溶け出さないの?』)

8. 「ジーン(と)」

8.1 「ジーン(と)」の被修飾語

まず、「ジーン」の被修飾語を表 13 に示す。これを見ると、「ジーン」は全 11 例のうち、擬態語として光の様態や泣く時の様態を表す場合が 2 例(18.2%)、精神的刺激を表す場合が 8 例(72.7%)、肉体的刺激(痛み)を表す場合が 1 例(9.1%)となっている。このように「ジンジン」は精神的刺激の用法がほとんどである。

表 13 「ジーン(と)」の被修飾語 (出現数)

音と様態の中間(2)						
歌うように光る	1	φ(名) ¹¹	1			
精神的刺激(8)						
—する	2	—くる	2	こみ上げる	1	φ(動)
肉体的刺激(1)						
—する	1					
合計(11)						

例(36)は擬音語の例で、物が振動して重低音で持続的に一回響くことを表し、「する」、「なる」などの述語が来る。ただし BCCWJ からはこの例が出現しなかった。例(37)は音と様態の中間の例で、当該の事態がまるで重低音で持続的に一回響くような様子であることを

¹¹ これは「泣くに泣けない めそめそ しくしく じいん ワーワー 泣けばすむってもんじゃない」(光村図書出版『国語 五上 銀河』)という例である。

表すが、あまり使われない用法だと思われる。例(38)は感動が心の底から湧き上がってきて深く染み入る様子を表し、「する」、「くる」、「込み上げる」などの述語が来る。例(39)は体(主に体表面)が痺れるような痛みを表し、「する」、「痛む」、「痺れる」などの述語が来る。ただし、BCCWJ からは「拳がジーンとする」の1例しか出現しなかった。(吉永(2016)のAタイプ)

(36) 耳鳴りがジーンとする。モーター音がジーンと{する/鳴る}。(音)

(37) ホタルがジーンと歌うように光る。子供がジーンと泣く。(音と様態の中間)

(38) 感動して{胸が/胸に}ジーンと{する/くる、込み上げる}。(精神的刺激)

(39) {手/足}がジーンとする(痛む、痺れる)。(肉体的刺激)

8.2 「ジーン(と)」の主体・対象

次に「ジーン」の主体または対象を表 14 に示す。擬音語の場合、「耳鳴り」や「モーター音」などが主体や対象に来ると思われるが、BCCWJ からはこの例が出現しなかった。音と様態の中間の場合、「ホタル」が歌うように光るという例が1例、人の泣く様子を表す例が1例出現した。精神的刺激を表す場合は、「胸」や「目頭」が主体や対象に来る。また、肉体的刺激(痛み)を表す例は「拳」の1例しか出現しなかった。このように「ジーン」は「胸がジーンとする」、「胸にジーンとくる」のように、精神的刺激(感動)を表す用法で一番よく使われる。しかし、精神的刺激を表す場合も、肉体的刺激を表す場合も、その他の様態を表す場合も、擬音語の「ジーン」が持つ重低音で持続的に一回響くという意味からの派生として捉えることができる。

表 14 「ジーン(と)」の主体・対象 (出現数)

音と様態の中間(2)				
ホタル	1	φ	1	
精神的刺激(8)				
胸	3	目頭	1	φ
4				
肉体的刺激(1)				
拳	1			
合計(11)				

以下、BCCWJ に出現した各用法の例を挙げておく。

- (40) (様態) 島のホタルは「じーん じーん」と歌うように光り、(竹田弘『星をまく人』)
- (41) (精神) 読んでいるといつも感動して胸が「ジーン」とします。(鎌形睦美・鎌形芳行『ふたり—私たちが選んだ道』)
- (42) (肉体) 拳のジーンとする痛みが脳に伝わってきた。(鱧余夢紋『メガネをかけた犬』)

9. まとめ

最後に、「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」、「ジーン」の意味関係を図1に示しておく。いずれも吉永(2016)のAタイプ(注4参照)に属するオノマトペである。

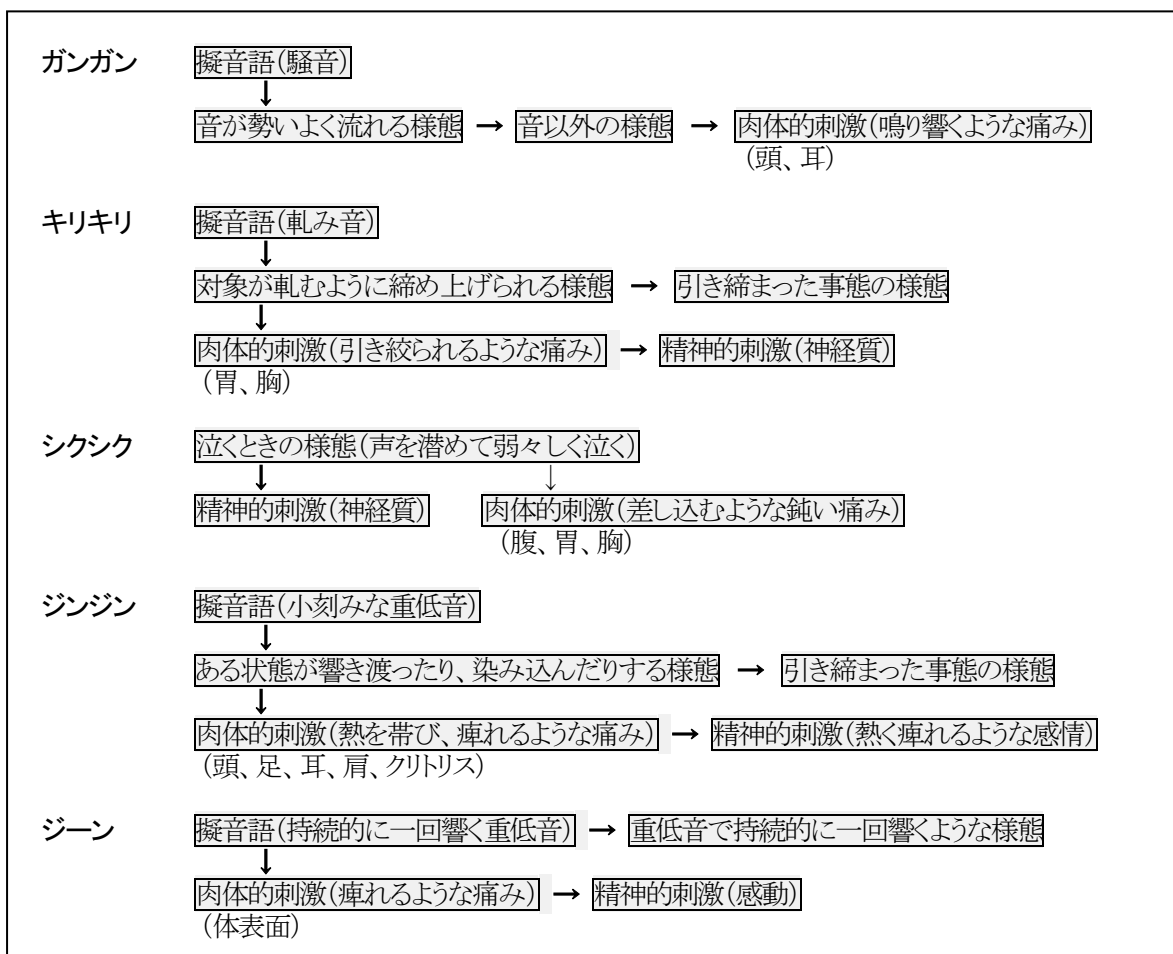


図1 「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」、「ジーン」の意味関係

付記: 本稿は 2019-2021 年度科学研究費基金(基盤研究(C))「心身のオノマトペの形態と意味の相関について—医療福祉分野への貢献を目指して—」(研究代表者: 吉永尚、課題番号 19K00725)による研究成果の一部である。

[参考文献]

- 小野正弘(編)(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館
- 杉村泰(2017)「日本語のオノマトペ「ヒリヒリ、ヒリッ、ヒリリ」、「ビリビリ、ビリッ、ビリリ」、「ピリピリ、ピリッ、ピリリ」の記述的研究」『ことばの科学』第 31 号, 名古屋大学言語文化研究会, 111-130
- 杉村泰(2018a)「日本語のオノマトペ「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」の記述的研究」『ことばの科学』第 32 号, 名古屋大学言語文化研究会, 5-23
- 杉村泰(2018b)「日本語のオノマトペ「キュン」、「キュンキュン」、「キューン」、「キュッ」、「キュッキュッ」の記述的研究」『ことばの科学』第 32 号, 名古屋大学言語文化研究会, 25-44
- 吉永 尚(2016)「心身の状況を表す擬態語動詞についての素性分析」『園田学園女子大学論文集』50, 21-28